

人と人、地域と地域、  
人と地域をつなぐ...

F U R E

# サテライト新聞

2017年7月 第14号

福島大学  
イメージキャラ めばえちゃん



発行

福島大学  
うつくしまふくしま未来支援センター  
(FURE)

相双地域支援サテライト

双葉郡楢葉町下小埦字麦入31  
(楢葉まなび館内)  
TEL 0240(23)6675



1500人が春風吹く川内路を駆け抜けたマラソン大会

第2回川内の郷かえるマラソンが4月30日、川内村で行われ、県内外から参加した約1500人のランナーが澄んだ空気をのどかな景色を楽しみながら駆け抜けた。今年にはハーフマラソンのほか、10キロ、5キロ、3キロ、1.5キロに加え、3キロのランニングを楽しむファンラン、1.5キロを家族で走るファミリーの部の7種目、男女と年代別の32部門

写真で振り返る  
第2回  
川内の郷 かえるマラソン  
約1500人が快走！！  
今年もおおおいに盛り上がる

川内優勝選手 吉田香織選手も登場  
沿道では村民がランナーに声援送る

で行われた。川内小学校の小学生(当時)が「昨年、マラソン大会を開きた」と、特別授業で発表したのをきっかけにして始まった大会。反響は大きく、ファンを増やし、今年も全国からランナーが集まり、中には大会名、川内村のシンボルでもあるカエルにちなんだ仮装姿の出場者も多く見かけられた。また、昨年に続き、川内優勝選手、吉田香織選手がゲストランナーとして登場した。

村民が「丸で」おもてなしをするのも、同大会の特徴。沿道には、村民が大きな声でランナーへ声援を送り、ハイタッチする子どもたちの姿も見られた。また、地元の人たちによるよさこい踊りやフラ、勇壮な和太鼓演奏といったアトラクションでも盛り上げたり、給水ポイントでは村で栽培された野菜類を使ったスムージー、スタート・ゴール地点となったヘリポートでは婦人会手製の豚汁が振る舞われた。



ダートニ、十一(川内優勝者)、  
吉田香織選手、(吉田)



多ノ(仮装)、十一(カエル)目え  
タタニ、七、十一、次、多、か、え、た



沿道には村中が旗を振って応援した



声援を送り、多くのハイタッチをしていた姉妹の姿も

相双地域支援サテライト  
**南相馬分室が開所！！**  
 職員2人が常駐  
 楢葉本所・川内分室・南相馬分室の体制に



福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトの2つ目の分室となる「南相馬分室」が5月、南相馬市に開所しま

した。職員2人が常駐し、活動しています。開所式は5月1日、南相馬分室が入居するみなみそま復興センターで、約30人が出席しました。初澤敏生（うつくしまふくしま未来支援センター）があいさつし、来賓の佐々木秀三（復興相馬市長）が祝辞を述べるとともに、めばえちゃんも加わって、分室名の書かれた看板の除幕式が行われました。



南相馬分室の地図

勝延南相馬市長が祝辞を述べるとともに、めばえちゃんも加わって、分室名の書かれた看板の除幕式が行われました。

今回の開所により、当サテライトは、楢葉本所（楢葉町）、川内分室（州内村）の3つのオフィスを構えたことになりました。より体制が強化された中で、これまで以上に幅広く活動し、相双地域の復興に全力を注ぎます。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

◇ 南相馬分室 ◇  
 住所 南相馬市原町区旭町1の8  
 みなみそま復興センター内  
 電話 024-42563  
 F AX兼用)

# 編集後記

今回は、表面で川内の郷かえるマラソンの話題をご紹介しました。たくさん、ほほえましい、そして元気

になれるようなシーンがありました。ほんの一部でもご紹介できればと思います。写真で紙面を埋めました。

◇ ハイタッチしている2人の女の子は、マラソンを走り終えたばかり。それでも元気に「がんばれ、がんばれ」とずっと声援を送り続けていました。

◇ 2人の声に、おりがとうと駆け寄り、ハイタッチをするランナーや、中には持っている給水をプレゼントするランナーも。ハーフコースのランナーにとっては、ひと踏ん張り

の場所で聞こえてくる愛らしい声援は、エネルギーの元になったに違いありません。今年も、素敵な場面に出会うことができました。

◇ 私事で恐縮ですが、先日、いわき市内で学校新聞を作っている高校生を対象に、講演をしてきました。テーマは「伝える」です。相双地域にある数多くの課題の中には、「情報発信」があります。いかに正しい情報を伝えるか、受け取ってもらえるか。これからも続く問題です。

発信者にある生徒たちには、私の過去の経験を交え、皆に正しく伝えるとは限らないが、伝える人間が諦めて、伝えることを放棄しては何もならない、信念を持ちましょう。正しい情報だと裏付けを取ることは無論です、というように話してきました。

◇ さらに、作家の井上ひさしさんが文章上達の秘訣に遺した言葉を紹介します。「一番大切なことは、自分にしか書けない事を、誰でもわかる文章で書くこと」。思いを持って、自分が

見聞きしたこと、経験したことを、簡潔に分かりやすく表現する、振り返れば、まさにこの思いで書くことを続けてきました。

◇ これを話しながら、自己反省。講演の際には、自分の行いを反省、改心するのが常なのです。サテライト新聞でももちろん、この思いを忘れてはなりません。これが、猛省です。これからも、サテライト職員として知り得たことを、分かりやすく皆さんにお伝えしていくと、思い新たに今号でした。

## サテライトホームページ リニューアル しました！！

So So Good

相双地域支援サテライトのホームページが、またまた新しくなりました！今回のリニューアルでは、13号でもお伝えした、理科実

験教室など、「学び」は楽しいという体験を子どもたちに伝える「スタディ&ラボ」、双葉郡の正しい情報を正しく伝える復興スタディツアー「Rebornツアー」のページを追加しました。

◇ 「スタディ&ラボ」では、これまでに開催した分をご紹介するためのコンテンツを鋭意作成中、出来次第、随時アップしてお届け致します。Rebornツアーは、これからスタートの事業で、開催次第、その模様をお届け致します。



また、Facebookのページも稼働が開始しました。HP、FBともに、これまでの以上の更新を行いますので、どうぞご覧ください！